

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 平成29年10月2日から平成30年2月21日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B15018、050482	

2 福祉サービス事業者情報（平成30年 1月現在）

事業所名： （施設名） 長野市立 昭和保育園	種別： 保育所
代表者氏名： （管理者氏名） 市長 加藤 久雄 保育・幼稚園課長 中澤 和彦	定員（利用人数）： 133名（132名）
設置主体： 経営主体： 長野市	開設（指定）年月日： 昭和26年4月1日
所在地：〒381-2226 長野県長野市川中島町今井1869-2	
電話番号： 026-284-4479	FAX番号： 026-284-4479
ホームページアドレス： http://www.city.nagano.nagano.jp/	
職員数	常勤職員： 26名 非常勤職員： 20名
専門職員	（専門職の名称） 名
	・園長 1名 ・保育主任 1名
施設・設備 の概要	（設備等）
	・調理室 … 1室 ・便所 … 2室 （屋外遊具） ・鉄棒・雲梯・滑り台 ・ジャングルジム
	・乳児室 … 3室 ・ほふく室 … 1室 ・保育室 … 4室 ・遊戯室 … 1室
	・事務室 … 1室

3 理念・基本方針

<p>○長野市保育理念</p> <ul style="list-style-type: none">・こどもの健やかな心身の発達を図り望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。・児童福祉法に基づき、保育を必要とする子どもの保育を目的とする。・子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。 <p>○基本方針</p> <ul style="list-style-type: none">・安全で安心できる生活の場を整え、子どもが自己を十分に発揮できるようにします。・専門の資格を持った職員が養護と教育を一体的に行い子どもの発達を援助します。・保護者の気持ちを受け止め、共に子育てをします。・家庭と連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じ助言するなど、地域における子育て支援の拠点として、社会的役割を果たします。

- ・保育を実践するにあたっては、保育の基本となる「保育課程」に基づき、一貫性を持って子どもの実態に応じて柔軟な保育を展開します。

○長野市立昭和保育園の保育目標

- ・たくさん遊んでおいしく食べる子ども
- ・あいさつできる子ども
- ・挑戦する子ども
- ・喜んで話したり聞いたりする子ども

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当昭和保育園は長野市が直接運営する30園(内保育所型認定子ども園1園・休園1園)の一つで、小学生や中学生が大事な労働力として農繁休業が設けられていた戦後まもなくの昭和23年6月から7月の田植え時期の農繁期に当り満2歳から小学校入学前の幼児を15日間預かる季節保育園としてスタートし、昭和26年4月に当時の中津・御厨両村により昭和保育園として昭和小学校東校舎の教室の一部を使用し通年性の園として開設され、昭和38年現在地の昭和小学校北側の敷地に移転、また、昭和41年10月に川中島町や篠ノ井市、松代町の大合併に伴い長野市立昭和保育園となり、昭和60年に全面改築し、更に、平成25年3月に事務室を縮小し新たに事務室西側に未満児室を増築し現在に至っている。

当保育園が開設された当初は旧北国街道沿いに役場や農協、小学校などがあり川中島町の中心部という環境ながら静かな農村地帯で桃やブドウ、リンゴなどの栽培が盛んで現在も続いており地区の名産となっている。昭和40年代後半以降、当園の東側を通る旧国道18号線、現在の国道77号線沿いに住宅地が造成され、商業施設等も増え地区としての人口が急増し、特に、1998年の長野冬季オリンピックの前年にはJR今井駅が開業され、その駅前にはオリンピックの選手村として高層のマンションが建設され、オリンピック後も今井ニュータウンとして更に人口が増加し、20年後の現在もJRやバス路線などの交通網が整備され商業区域も広がり古い歴史と新しい町が溶け合った活気ある地域となっている。

そうした中で、開設から66年という歳月を経て卒園生も数千人を越えており地元で暮らす方も多く、地域の人々も川中島地区唯一の公立保育園として当園には深い愛着を感じており、様々な形で協力をしている。当園でも子どもの生活の連続性を踏まえ、地域の人々と連携し地域に根差した運営を目指しており、高齢者との世代間交流をはじめ、園の夏祭り、運動会、音楽鑑賞会等への参加を地域の人々にも呼びかけ多くの方の参加をいただいている。園舎の中ほどには当園を中心とした地域マップが掲示されており、近くの公園や今井駅周辺等への幾つもの散歩コースが子どもたちの興味に繋がるようにカラフルに描かれており、各クラスの入り口には散歩途中で子どもたちが集めてきた木の実や枝・葉が小机の上に所せましと並べられ、同じく飼育しているどじょうやザリガニなどとともに来訪者の心をほのぼのとさせてくれる。

現在、当園には、0歳児7名・1歳児3名のいちご組、1歳児12名のもも組、1歳児8名・2歳児8名のりんご組、2歳児16名のめろん組、3歳児19名のにじ組、4歳児15名と16名のほし組・つき組、5歳児28名のおひさま組の八つのクラスがあり、それぞれの発達段階に合わせ「たくさん遊んでおいしく食べる子ども」、「あいさつできる子ども」、「挑戦する子ども」、「喜んで話したり聞いたりする子ども」という当園の保育目標の実現に向けて全職員で安全で安心できる生活環境を整備し、子どもたちが自己を十分に発揮できるように熱心に取り組んでいる。

また、当園では保護者の就労と子育ての両立等を応援するため多様化した保護者のニーズに合わせて長時間保育や一時預かり、おひさま広場、障害児保育、親子交流体験等のサービスも実施している。長時間保育は短時間利用者が時間外保育を必要とする際に利用するサービスで定期的にご利用される保護者が多くなっている。また、一時預かりについても保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の解消等による預かり保育を行うサービスで、少しずつ浸透しており利用する方も増えている。おひさま広場は未就園児と保護者対象に園開放及び子育て相談を行うサービスで毎週木曜日に実施しているほか園の公開の行事への参加も受け入れている。障害児保育は保育を必要とする心身に障害を持つ子どもの保育を行うサービスで、親子交流体験も障害のある子どもが園児との遊びや給食を通して子ども同士の交流を行い心身の発達を促すという内容にな

っている。

当園では「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の目標「かがやく笑顔で 元気に遊ぶ」及び「子ども・子育て支援事業計画 ～わくわく子育て すくすくこども～」に沿いビジョンを明確にしており、次年度 2018 年度から 2020 年度までの中期計画として公開保育や長野市運動プログラムの充実などを掲げ具体的に進めており園内の環境づくりや職員の資質の向上などに積極的に取り組んでいる。

保護者のアンケートでも「散歩等で戸外にでる機会が多いこと」、「子どもの発育や意欲を促すような活動・遊び等が行なわれていること」、「担当保育士が子どもの良い所や個性を認めていること」、「降園時に子どもが満たされた表情や喜んだ表情をしていること」、「子育てに関する気がかりな点や悩み等について気軽に個別相談ができること」、「行事等を通して、地域住民との交流を図っていること」などに好感を示す方が多く、園の平成 29 年度の重点課題の「保育内容の充実」や「保護者支援」、「地域の子育て支援」等、子どもが今現在を最も充実して生き、望ましい未来を創り出す力の基礎を培うための保育の具体策が保護者や地域の人々の協力を得ながら確実に実施されている。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回は初めて
---------------	--------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

1) 地の利を生かした小学校との連携

当保育園の発祥の地ともいえる昭和小学校がすぐ南に隣接しており、地の利を生かし小学校のグラウンドが使えるという環境面も踏まえ地域の幼保小連携会議で年間計画が立てられ、小学校児童との異年齢交流が互いの資源を十分生かしつつ小学校の理解と協力をいただきながら取り組まれている。

特に今年度は「子どもの育ちをつなぐ接続期(アプローチ・スタート)カリキュラム～子どもの育ちをつなぐ～」を昭和小学校と小学校区保育園（昭和保育園及びその他 2 園）が共同で試行事業として行い就学を見通した保育に向けて年長児の後半 6 ヶ月をアプローチカリキュラムとし、また、昭和小学校入学からの前半 6 ヶ月をスタートカリキュラムとして策定し、就学時に目標とする子どもの姿を実現するために協働している。現在、当保育園では子どもの就学前の理想の姿作りに向けて「健康、人間関係、環境、言葉、表現」の 5 つの領域で「学びの自立」、「生活上の自立」、「精神的な自立」を目指し、運動あそびやルールのある集団遊び、地域のお年寄りとの交流、挨拶、自然に親しむ等の具体的な保育内容に取り組んでいる。

小学校との連携・交流の機会も数多く設けられており、日頃から昭和小学校の校庭へ散歩に出掛け児童と自然に親しみ、築山でソリ遊びをしたり、小学校 3 年生の学校発表や 5 年生とのゲームなどを通じ交流し、一日入学、運動会の旗ひろい、小学校の金管バンドの演奏会、6 年生の菊栽培等に園で子どもが携わることで小学校での生活に興味や意欲、関心が持てるようにしている。また、保育園・小学校のそれぞれの職員が幼保小連携会議に出席し、更に、公開保育や公開授業等を相互に実施し、接続期の育ちをどう理解しつなぐかを学び合う機会も設けられている。

当保育園では「子どもの育ちをつなぐ接続期(アプローチ・スタート)カリキュラム～子どもの育ちをつなぐ～」を基に来年度・平成 30 年度の市の公開保育の対象となっており、おそらく、移行期の子どもに配慮したこの取り組みが長野市内の全園・全小学校での取り組みとして伝播していくものと思われる。

2) 異年齢保育と遊びの充実

当保育園では 0 歳児 7 名・1 歳児 3 名のいちご組と 1 歳児 8 名・2 歳児 8 名のりんご組の異年齢のクラスが 2 つあり、職員一人ひとりがその意味を十分理解し、自らの行動で枠を超えることを意識的に心掛け、現在の異年齢クラスの編成についても月齢を近づけるようにしており、年下の子が年上の子から学ぶ機会が多くそれぞれの発達に好影響を与えている。結果として園全体の未満児や年少児、年中児、年長児との異年齢での交流、子どもの年齢ボーダーレス化等を標榜し

取り組んでいる。

現在、当保育園には132名の子どもが在籍しており、105家族が保護者アンケートの対象となっており2名以上子どもを通園させている保護者もいる。そうした中、少子化によって子どもたちが異年齢の子ども同士とかかわることが少ない現代、異年齢保育で多様な仲間関係や自我の発達にプラスになるとも言われており、当保育園でも異年齢保育活動を通して子どもたちが相互に教え合い、学び合い、共に育ち合うことが出来ている。

当保育園では発達に応じた遊びが自発的にできるような環境面の整備ができており、子どもたちは登園後すぐに戸外に出て遊んでおり園庭をいくつかのコーナーに分け未満児も幼児とふれ合えるようにしている。全園児が体操をし、マラソンなどの時間を持ち、年中や年長児は鬼ごっこ・ドッジボールなどに興じ、ボール遊びや三輪車の漕ぎ方などを未満児に教えるなど、運動能力の向上や健康保持なども図っている。保育室の中にもコーナーを設け、子どもたちが自由に選べるように興味を持てる玩具を準備し段ボールなどを使った手作りおもちゃなども揃え、子どもが自分から取り組むことができるように環境を整備している。また、遊びの中で玩具等の貸し借りをしながらルールを学び、散歩や遠足などを通して交通ルールなども自然に身に付けるようにしている。園舎の廊下の壁には散歩マップがありその途中で地域の人々と挨拶を交わしたり、戸外に出ることで草花や木々を見たり自然に生息する川魚や昆虫を見つけ、触ったりして身近な自然に親しんでいる。散歩先の公園で見つけた花や木の実が保育室入り口の小机の上に置かれ、葉なども持ち帰りお面などを作り自然を取り入れ豊かな発想に繋げている。また、その小机の上には水槽があり、どじょうやザリガニなどを飼育し生命の大切さも学んでいる。

異年齢保育活動を通して個々の子どもの拠点となる場所や居場所が広がり、縦割りクラス、横割りクラスの先生などの関わりも広がっている。

3) 地域の人々との連携と交流

当保育園の今年度の重点課題の「保育内容の充実」には「地域資源と人材を生かした保育を行う」や「世代間交流を充実させる」、「保育園、小学校との連携の推進」等が上げられ、また、「保護者支援」として「相談しやすい雰囲気作りをする」とし、子どもの生活の連続性を踏まえ家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるように配慮している。

地域の未就園児との交流を図るおひさま広場や一時預かりをしたり、運動会などの行事への参加の呼びかけを行い、地域の子育てニーズに応じている。また、民生児童委員を園の行事に招待し、園のことについて知ってもらうとともに地域のことについての情報交換を行っており、地域のさつき会(民生委員の集まり)を介してお年寄りとの世代間交流(苗植え、運動会、クリスマス会)をしたり、独居老人の集まりにも年長組が参加し遊戯・歌等を披露している。

当保育園の保育課程としても「地域との連携」を文書化しており、地域と積極的な連携を図り地域社会での生活体験の場を作っている。地域のフェスティバル、イルミネーションへの作品展示、JA支所での餅つき、運動会等などで連携・交流している。園内には公園や公共機関、駅などをイラストで描いたお散歩マップがあり、散歩中に挨拶をするなど地域の人々と関わることができるようにしている。園として園開放や育児講座、育児相談などに応じ、隣接の小学校6年生やすぐ近くのJA支所職員による園南側道路の雪かき等も行われ、長野市を本拠地とするプロのサッカー選手によるサッカー教室も行われ子どもたちとの関わりが持たれている。

また、「長野市子ども・子育て支援事業計画」に地域の学校教育等への協力についての姿勢が明記されており、小学生・中学生、高校生との交流(職場体験、ボランティア受け入れ)、実習生の受け入れなども実施しており、中学の家庭科の授業への協力なども行っている。

地域で子どもを育てるという意味から世代間交流等の重点施策についても職員会議等を有効に活用し、正規職員・嘱託関係なく全員がその趣旨をしっかりと理解し共通の課題として取り組んでいる。

4) 職員のモチベーションアップと風通しの良い職場風土

市の保育理念や基本方針、当保育園の目標を踏まえた平成29年度の事業計画があり、園全体で重点課題を決め、職員が皆同じ方向を向いて協働している。

期初の園長による「職員アンケート」の前段の設問に「自分が研修の講師になるとすれば、どんなテーマで研修の講師を行いたいのか？」と掲げ、各職員に「研修の講師をやれるほどのテーマを一つ習得しなさい」という能動的な意味も含め提案を行い、職員はそうした中から業務に関する

る自信のある研修テーマを選ぶことで、職員同士の横展開として拡大できる素晴らしい仕組みとなっており、「指導案」、「感染症」、「環境製作」等のグループに分かれ企画担当し研修の効果を上げている。また、後段の設問では「昭和保育園の今年度のスローガンは何が良いですか？」と問い、アンケートの形を借り運営参画の呼びかけを図り、「自分の考えるスローガンが園の年度スローガンになるかも知れない・・・」とモチベーションアップのための手法として仕事に取り組む意欲を高めている。

また、園の方針として研修等へも積極的に参加できる雰囲気が出来上がっており、研修受講者の体験・習得内容も受講者だけの財産とすることなく、丁寧な発表の場を設けるなど未受講者も含め全員の財産として行くルールが構築されている。

職員一人ひとりも自己啓発意欲が高く、それぞれしっかりと目的意識を有しており、職員の切磋琢磨しようという意識が職場全体に醸成されていると同時に、幹部と職員個々の間の課題についてのコンセンサスが取れており改善へと繋げている。また、子育て経験のある職員が体得している知識や技術、気持ち等を未経験職員にしっかりと伝え保育に当っており、職員個々が自らの立場を良く自覚・認識し、自らの職位でそれぞれの職員間の潤滑油としての役割を意識的に果たしており、更に、それぞれの知識・技術の共有化も図られ組織として功を奏している。

園の方針がしっかりと浸透し、全職員が自分のものとしてしっかり受け止め、お互いに思ったことを言い合える風通しの良い職場でもある。

◇特に改善する必要があると思う点

1) 保育園の基本的な考え方(保育目標・保育方針)の保護者への周知

公立保育園としての共通理念があり保育園の存在意義、使命や役割等を明確にしている。また、共通の基本方針が定められており、職員会議でも理念や基本方針について読み合わせをしたり園長からの指導もあり、継続児保護者説明会、新入児説明会等で「保育園のしおり」などを用いて保護者へも具体的に説明がされている。

保護者へ周知するために事務室や各保育室、廊下などに掲示しており、子どもの発達過程に応じた当保育園独自の分かりやすい保育目標もあり市の保育理念や基本方針にも連動している。

保護者アンケートの保育園の基本的な考え方(保育目標・保育方針)に関する項目について無回答という方が三分の一ほどあり浸透度が浅いのではないかとと思われる。今後、更に、保護者の集まる機会などで市としての保育理念や基本方針、園の目標等についてより応答的な形で説明されることを期待したい。

2) 嘱託職員の処遇への配慮

保育士不足の中、当保育園でもポスターを掲示したり募集案内を配布し、より多くの人材確保のために取り組んでおり、退職者の再雇用や新規採用試験などに繋げている。職員の採用については正職員と嘱託については市の担当部署により実施されており、当保育園として朝夕パート保育士、代替保育士、休憩パート、代替調理員などを確保している。

人材育成と人事基準については新規職員採用時研修で周知されており、職務に関する成果や貢献度等については正規職員について能力評価や業績評価が用いられている。現在、嘱託職員についても「嘱託職員業績評価表」が使用され、期首面談や評価面談が行われ、処遇等についても検討段階にあるようであるが、子育て経験の豊富な嘱託職員がその体験・気持ち等を未経験職員にしっかりと伝える機会もあり、当園でも嘱託が重要な役割を担っている。

当保育園個別の課題ではないが、何らかの形で嘱託職員にもインセンティブを与えることが出来れば、更なるモラルのアップに繋がって行くのではないかとと思われる。

7 事業評価の結果(詳細)と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施(別添1)並びに内容評価項目の評価対象A(別添2)

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（平成30年 2月16日記載）

これまで、長野市の保育理念や基本方針に沿った、質の高い乳幼児保育の提供を目指し、全職員が一丸となって、保育の振り返りによる見直しや利用者サービス、職員育成に取り組んできました。今回の第三者外部評価の受審により、昭和保育園の日常の保育活動を審査いただく事で成果や課題等について再認識する事ができました。

また、保護者の皆様には保護者アンケートで温かい励ましのお言葉、改善を促すお言葉等をいただきありがとうございました。さらに、保育・幼稚園課の皆様はじめ多くの方の支えをいただき、受審できた事に感謝申し上げます。

評価結果総評の「特に良いと思う点」

- 1 地の利を活かした小学校との連携
- 2 異年齢保育と遊びの充実
- 3 地域の人々との連携と交流
- 4 職員のモチベーションアップと風通しの良い職場風土

に関しては、さらに伸ばしていく為に不断の努力を継続してまいります。

「特に改善する必要があると思う点」

- 1 保育園の基本的な考え方（保育目標・保育指針）の保護者への周知に関しては、入所・継続保育説明会等のあらゆる機会を活用して引き続き粘り強く周知してまいります。
- 2 嘱託職員の処遇改善への配慮に関しては、自園だけでは解決できない事ですので、保育・幼稚園課の指導を仰ぎながら改善できる事から取り組んでまいります。

調査者様からの新鮮な視点で自園の強みと弱みを示唆していただく事により、客観的に保育の振り返りができ、職員の士気をさらに高める事ができました。

ご指摘いただきました事については、真摯に受け止め、それぞれにフィードバックしたいと考えております。

今後もより良い保育の提供を行う為に改善を行い、職員一同、子ども達及び保護者の皆様の最善の利益に繋がるように努めてまいります。

最後になりますが、第三者という新鮮な視点で評価していただいたコスモプランニングの皆様にご感謝申し上げます。